

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除所長

平成16年度病害虫発生予報第5号について
平成16年度病害虫発生予報第5号を発表したので送付します。

平成16年度病害虫発生予報第5号

向こう1か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

発生予報の概要

作物名	病害虫名	発生量の 平年比	本文での 記載ページ
普通期水稻	穂いもち 紋枯病 ごま葉枯病 トビロウソウ 斑点米カメムシ類	やや少 並 並 並 やや多	2 2 2 2 2
大豆及び野菜類 全般	ハスモンヨトウ等のチョウ目(鱗翅 目)害虫	並	2
施設果菜類	ウイルス媒介虫(アブラムシ類)		3
露地キュウリ(中 山間地域)	べと病 うどんこ病 褐斑病	並 並 並	3 3 3
トマト	トマト黄化葉巻病(シルバーリーフ コナジラミ)		4
果樹全般	果樹カメムシ類	-	4
カンキツ	黒点病 かいよう病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ	やや少 やや多 やや多 やや少	5 5 5 5
チャ	炭疽病 もち病 輪斑病 チャノコカクモンハマキ チャハマキ カンザワハダニ チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	やや少 並 やや少 並 やや多 多 並 やや多 多	5 5 6 5 6 6 6 6 6

作物の生育状況(8月中旬)

普通期水稻は幼穂伸長期～出穂期、大豆は栄養成長期、露地キュウリは中山間地では収穫期、温州みかんは果実肥大期、茶は3番茶の摘採後であった。

9月の気象予報

発生予報の根拠および防除対策

普通期水稻

1 穂いもち (やや少)

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の葉いもちの発生面積率30.4%(平年49.3%)、発病株率6.0% (平年15.8%)は平年よりやや少ない。
- 2) 9月の気温・降水量は平年並と予想されている。

[防除上の注意]

- 1) 葉いもちの発病程度が高いほ場では、収穫前使用日数等に注意して穂揃前に防除する。

2 紋枯病 (並)

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の発生面積率35.7%(平年47.0%)は平年よりやや少なく、発病株率8.3%(平年9.7%)は平年並である。
- 2) 9月の気温・降水量は平年並と予想されている。

[防除上の注意]

- 1) 穂ばらみ期以降はイネの抵抗性が弱まり、高温多湿条件下では上位葉鞘へ進展しやすいので、発病程度が高いほ場では、収穫前日数に注意して防除する。

3 ごま葉枯病 (並)

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の巡回調査では発生を認めていない。

[防除上の注意]

- 1) 出穂後の本病の発生は穂枯れの原因になるので、常発田では穂揃い期前後に防除する。

4 トビイロウンカ (並)

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の発生面積率1.8%(平年12.4%)は平年よりやや少なく、10株 当り虫数0.1頭未満(平年0.3頭)は平年並である。

[防除上の注意]

- 1) 成虫・幼虫ともに株元に生息しているので、防除する場合は株元まで薬剤が十分に到達するようにする。(要防除密度は短翅型雌成虫が株当たり0.2頭)

5 斑点米カメムシ (やや多)

病害虫発生注意報第4号(平成16年8月24日)参照

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の発生面積率12.5%(平年10.7%)は平年並、20回振り虫数0.5頭(平年0.3頭)は平年よりやや多い。

[防除上の注意]

- 1) 本虫による被害は米の品質を低下させ、等級格下げの主要因になるので、穂揃期とその7~10日後に2回防除する。残存虫が多い場合は収穫前使用日数等に注意してさらに追加防除する。

大豆及び野菜類

1 ハスモンヨトウ等のチョウ目害虫 (並)

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の調査での、ハスモンヨトウの食害を受けた大豆のほ場面積率50.0%(過去9か年平均75.8%)は平年並、食害度は13.5(過去9か年平均8.3)で、平年よりやや多い。
- 2) 8月中旬の露地キュウリの調査では、ハスモンヨトウ等チョウ目害虫の食害を受けたほ場面積率は41.7%(平年39.5%)、被害葉率0.4%(平年2.9%)は平年並である。
- 3) フェロモントラップの7月下旬から8月中旬の誘殺状況は、ハスモンヨトウは西都市では平年より少なく、都城市では平年並となっている。またオオタバコガは西都市で過去2か年と同程度、タバコガは西都市で7月6半旬~8月3半旬に過去2年より多くなったが、8月4半旬には同程度となった。

[防除上の注意]

- 1) 早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。

施設果菜類

1 ウイルス媒介虫(アブラムシ類、アザミウマ類、コナジラミ類)

[防除上の注意]

- 1) ウイルス病の多くは害虫によって伝搬され、特に生育初期に感染するほど被害が大きくなる。育苗時から媒介虫の防除を徹底し、ウイルスの感染防止と苗による本圃への害虫の持ち込み防止を図る。また栽培に当っては防虫網や近紫外線カットフィルムを張りウイルス媒介虫の侵入を防止するとともに、害虫の生息場所となる周辺雑草の除去を行う。

露地キュウリ

1 べと病 (並)

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の発生面積率75.0%(平成27年74.3%)、発病葉率18.6%(平成27年17.6%)は平成27年並である。

[防除上の注意]

- 1) 多発すると防除が困難なので、予防散布あるいは初期防除に重点を置く。
- 2) 草勢の衰えは発生を助長するので、肥料切れしないよう肥培管理に注意する。

2 うどんこ病 (並)

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の発生面積率33.3%(平成27年29.3%)は平成27年並、発病葉率10.3%(平成27年4.2%)は平成27年よりやや多である。

[防除上の注意]

- 1) 最初は葉の裏に発生しやすいので注意し、早期発見に努め初期防除を徹底する。
- 2) 葉が老化すると多発する傾向にあるので、老葉はなるべく除去し通風・採光をよくする。

3 褐斑病 (並)

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の発生面積率58.4%(平成27年45.7%)は平成27年よりやや多、発病葉率7.3%(平成27年10.8%)は平成27年並である。

[防除上の注意]

- 1) 多発してからの防除は困難なので初期防除を徹底する。
- 2) 昨年多発したほ場では特に注意する。

トマト

1 トマト黄化葉巻病(媒介虫:シルバーリーフコナジラミ)

[防除上の注意]

- 1) 沿海地帯を中心に県内ほぼ全域でトマト黄化葉巻病の被害が拡大している。トマト黄化葉巻病は発病後の収穫が皆無になる恐ろしい病気で、シルバーリーフコナジラミによって他の株に次々に伝染する。発病株は伝染源となるので家庭菜園のトマトも含め、見つけ次第抜き取り処分する必要がある。
- 2) 育苗・栽培施設内外の雑草その他栽培植物はシルバーリーフコナジラミの増殖を助長する種類が多いので、除草を徹底し栽培目的以外の作物や観葉植物等を栽培しない。
- 3) シルバーリーフコナジラミの施設への侵入を防ぐために、育苗・栽培施設の開口部は、0.8mm目以下(0.4mm以下が理想)の防虫ネットを設置するとともに、育苗期間中の防除を徹底する。
- 4) 施設内に黄色粘着トラップを設置し、コナジラミの密度を低下させる。
- 5) 定植時には必ず粒剤処理を行う。

果樹全般

1 果樹カメムシ類 (-)

[予報の根拠]

1) 最近(7月16日～8月15日)のチャバネアオカメムシ誘殺数は、平成12年及び14年について、2～3番目に多い。

表1 フェロモントラップによるチャバネアオカメムシ及びツヤアオカメムシの誘殺数(7月16日～8月15日)

	延岡市		都農町	
	チャバネ	ツヤアオ	チャバネ	ツヤアオ
平成16年	746	0	162	0
平均(H11～15)	525	5.2	241注1	0注1
平成11年	9	0	5	0
12年	464	5	728	0
13年	1	0	0	0
14年	2107	21	234	0
15年	40	0	13注2	0注2

注1:平成11年～14年の平均値

注2:平成15年8月6日～10日は欠測

[防除上の注意]

1) 果樹カメムシ類は園外から飛来し、地域や時期によって発生量が大きく変動するので、園内外を見回り、早期発見・早期防除に努める。

カンキツ

1 黒点病 (やや少)

[予報の根拠]

1) 8月中旬の果実での発生面積率は3.7%(平成44.8%)、発病果率0.4%(平成9.6%)で平成より少ない。

[防除上の注意]

1) 伝染源となる枯れ枝は、可能な限り取り除き園外に持ち出して焼却処分する。

2) 雨が多いと多発する恐れがあるので、前回の防除から積算降水量300mm毎又は1か月おきに薬剤散布を行う。

2 かいよう病 (やや多)

[予報の根拠]

1) 8月中旬の果実調査では、発生面積率14.8%(平成7.6%)、発病果率0.9%(平成0.6%)は平成よりやや多い。

[防除上の注意]

1) 発病した枝葉は伝染源となるので可能な限り取り除き園外に持ち出して焼却する。

2) 風雨による枝葉の損傷を少なくするため防風垣を整備する。特に台風の襲来が予想される時は事前に薬剤散布を行う。

3 ミカンハダニ (やや多)

[予報の根拠]

1) 8月中旬の発生面積率は48.1%(平成49.0%)、寄生葉率は16.7%(平成13.0%)で平成並である。

2) 先月に比較して発生面積率・程度とも急激に増加している。

[防除上の注意]

1) 生息密度が高くなると防除が困難になるので、寄生葉率30%(1葉当たり虫数0.5~1頭)を目安に防除を行う。

4 チャノキイロアザミウマ (やや少)

[予報の根拠]

1) 8月中旬の発生面積率3.7%(平成7.5%)、寄生果率0.1%(平成0.3%)は平成よりやや少ない。

[防除上の注意]

1) 果実に寄生すると収穫果実の外観を損なうので、10果当たり虫数3頭を目安に増殖初期に防除する。



1 炭疽病 (やや少)

[予報の根拠]

1) 8月中旬の発生面積率36.8%(平成59.9%)、 m^2 当り病葉数1.8葉(平成6.3葉)は平成よりやや少ない。

[防除上の注意]

1) 新芽の生育期に雨が多いと発生しやすい。開葉期に防除を行い、多発生が予想されるときには追加防除する。

2 もち病 (並)

[予報の根拠]

1) 8月中旬の巡回調査では発生は認めていない。
(平成値は、発生面積率4.7%、 m^2 当り巻葉数0.2葉)

[防除上の注意]

1) 秋芽の生育期に雨が多いと感染しやすい。特に中山間地域では発生が多いので秋芽の生育期に防除する。

3 輪斑病(新梢枯死症) (やや少)

[予報の根拠]

1) 8月中旬の輪斑病の発生面積率5.3%(平成18.1%)、 m^2 当り病葉数0.1葉(平成0.8葉)は平成よりやや少ない。

[防除上の注意]

1) 新梢枯死症は輪斑病菌によって起こる枝枯れで、萌芽から開葉期にかけて、包葉などが取れたときにできる傷口から感染するので、伝染源となる輪斑病が見られるほ場では秋芽の萌芽期~2葉期に防除するが、輪斑病が多いほ場では5~7日間隔で2回防除する。

4 チャノコカクモンハマキ (並)

[予報の根拠]

1) 8月中旬の巡回調査では発生未確認である。
(平成値は、発生面積率5.0%、 m^2 当り巻葉数0.2枚)

[防除上の注意]

1) 都城市に設置したフェロモントラップ調査では、発蛾最盛期は7月21日~25日で、次の発蛾最盛期は平成よりやや早い8月下旬と予想される。

5 チャハマキ (やや多)

[予報の根拠]

1) 8月中旬の発生面積率10.5%(平成2.6%)は平成よりやや多、 m^2 当り巻葉数0.1枚(平成0.1枚)は平成並みである。

[防除上の注意]

1) 通常チャノコカクモンハマキと同時に防除できるが、その発蛾最盛期と10日以上異なる場合は別に防除する。

6 カンザワハダニ (多)

[予報の根拠]

1) 8月中旬の発生面積率36.8%(平成22.7%)は平成よりやや多、寄生葉率5.8%(平成1.4%)は平成より多である。

[防除上の注意]

1) 同系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のロ - テ - ション散布を実施する。

7 チャノキイロアザミウマ (並)

[予報の根拠]

1) 8月中旬の払落し調査における発生面積率52.6%(平年47.9%)、払落し 虫数2.7頭(平年8.4頭)は平年並である。

[防除上の注意]

1) この時期は卵・幼虫・蛹・成虫が混在し、とくに蛹は地表面にいて防除効果が低いので残効性の長い薬剤が1週間間隔での連続散布を行う。

8 チャノミドリヒメヨコバイ (やや多)

[予報の根拠]

1) 8月中旬の発生面積率52.6%(平年40.0%)、100葉当り虫数3.4頭(平年4.5頭)は平年並である。

[防除上の注意]

1) チャノキイロアザミウマとの同時防除とする。

9 クワシロカイガラムシ (多)

[予報の根拠]

1) 8月中旬の巡回調査では発生面積率42.1%(平年6.8%)、寄生株率16.3%(平年1.7%)は平年(過去7カ年平均)より多い。

[防除上の注意]

1) 最近、増加傾向にあるので早期発見に努める。(周縁部から発生しやすい。)

2) 防除適期は幼虫ふ化開始から1週間後、または幼虫ふ化最盛期なので、ふ化状況をよく観察して防除する。

3) 薬剤散布は、成木園で10a当たり1,000リットル程度を目安に、噴口を茶株 の中に差し込むなどして枝幹に十分かかるようにていねいに散布する。

その他

1 防除上の留意点等については、「病虫害・雑草防除等指導指針」(宮崎県・宮崎県植物防疫協会)を参照するが、農薬適用の有無などについては次のホームページで確認する。

日本植物防疫協会ホームページ <http://jppn.ne.jp>

農林水産省ホームページ <http://www.maff.go.jp/nouyaku/>

2 農薬の使用に当たっては、農薬使用基準の遵守並びに危被害の発生防止に努める。特に水質汚濁性農薬ベンゾエピン剤(商品名、マリックス乳剤、粒剤等)は使用しないこと。

3 発生量(程度)の区分

多い	(高い)	やや多いの外側10%の度数の入る幅
やや多い	(やや高い)	平年並の外側20%の度数の入る幅
平年並		平年値を中心として40%の度数の入る幅
やや少ない	(やや低い)	平年並の外側20%の度数の入る幅
少ない	(低い)	やや少ないの外側10%の度数の入る幅

(平年値は過去10年間の平均)

4 予察情報の種類

病虫害防除所から発表する情報は次の5つです。

1)予報・・・向こう1か月の発生状況を予測し、毎月25日前後に発表する。

2)注意報・・・主要な病虫害の多発生が予想され、かつ早めに防除が必要な場合に発表する。

3)警報・・・主要な病虫害の大発生が予想され、かつ緊急に防除が必要な場合に発表する。

4)特殊報・・・県内で初めて発生を認めた病虫害がある時や、病虫害の発生様相が特異な時に発表する。

5)防除情報・・・注意をうながす必要がある病虫害の発生状況や、各種の防除技術指導情報について随時発表する。(従来の防除速報にあたる)

お知らせ(<http://www.jppn.ne.jp/miyazaki/>)

病虫害防除所では、ホームページで情報を提供しています。予察情報の根拠となる地域別調査データ、防除対策等を登録しています。ぜひご利用ください。

【文書取扱】

病虫害防除所 櫛間

TEL :0985-73-6670

FAX :0985-73-7499

E-mail : ykusima@pref.miyazaki.jp